

## 授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原 誠

### 1．授業の概要等

本講義では、社会において実施されている多様なスポーツについて、その領域、およびその現状について認識を深めるとともに、そのマネジメントについて理解することを目的としている。

国のスポーツ政策の基本となる「スポーツ振興基本計画」が平成12年に策定され、現在、生涯スポーツ社会の実現に向けた施策が展開されている。将来、スポーツに関わる仕事につくことが予想される本コースの学生にとって、今日の社会におけるスポーツ状況を的確に把握し、そのマネジメントについて学ぶことは極めて重要なこととなる。

授業の内容としては、スポーツマネジメントの意味・意義、日本のスポーツ政策、欧州のスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ、公共スポーツ施設、スポーツ産業、フィットネスクラブ等について取り上げている。

受講生にとっては、はじめて学ぶ内容が多くなるため、できるだけ身近な例を示しながら授業を進めるよう配慮している。地域におけるスポーツの現状については、愛媛県や松山市の状況を提示しながら、また、欧州や日本のスポーツクラブの状況についてはビデオを視聴し、理解を深めるよう努めている。さらに、毎時間、授業内容をまとめた資料を配布している。資料には初回授業から最後の授業に至るまで、通し番号を付し、整理がしやすいよう配慮している。授業後の復習等に有効に活用して欲しいという意図で行っている。

さらに、授業への参加感を高めるため、毎時間、各自が一度は発言するよう、身近な事項に関する質問を行っている。各自が発言した内容を取り入れながら授業を進めるよう心がけている。

評価は、中間と期末に行う試験によって

行っている。学習内容が多岐にわたり、また量的にも多くなるので、中間で一度、まとめの意味もあり、試験を実施している。試験の結果、理解の程度が不十分だと思われる者については、レポートを書くことによって補っている。

### 2．アンケート調査の実施

最後の授業時に質問紙によるアンケートを実施している。調査項目は、「授業に対する各自の取り組み状況」、「授業の内容や理解の程度（授業内容、授業レベル、理解の程度等）」、「授業のやり方」、「授業の環境（教室、設置機器・備品等の環境）」、「その他、授業全般について」、となっており、すべて自由記述で回答する形式をとっている。授業時にアンケートをとっているため、授業出席者に対する回収率は100%となっている。記述状況は、「その他、授業全般について」では、最後の付随的項目ということもあり、無記入の者が若干いるが、他の項目については全員が記述している。回答状況は良好といえる。

### 3．授業に対する取り組み状況

本授業は金曜日の2時限目を実施しているが、遅刻する者が多く、授業に対する基本的姿勢にやや欠けている。また、介護等体験や運動部の大会参加等で、授業に出席できない者が頻繁に出るといった状況となっている。15回の授業には流れがあり、途中で途切れると内容のつながりや内容の理解に不都合を来すこともある。15回の授業すべてに出席できるよう、対策を講じることが必要だと思われる。

受講生の記述をみると、「プリントの読み返しは毎回行った。毎回、きちんと出席もしたし、遅刻もしてない」というように真剣に授業に臨んだ者がいる半面、「遅刻が多かったのがためだった」、「真剣に取

り組んだが、何回か休んでしまった」と記述している者もいる。遅刻や欠席の多さを反映した記述となっている。授業中の雰囲気や授業に臨む真剣さは評価できるが、本授業の受講生に望まれるのは、欠席しない、遅刻しないという授業に臨む基本的姿勢であるといえよう。

#### 4．授業の内容や理解の程度

先述したように、授業の内容が多岐にわたること、また、受講生にとって初めて学ぶ内容が多くなることから、受講生が身近に感じる事項を取り上げ、専門的見地から分析・説明するように心がけた。今回は受講生が中心となって取り組んだ、愛媛大学総合型地域スポーツクラブ会員交流イベントについて、撮影した写真による振り返り等をしながら、マネジメント上の問題点について学習した。

アンケートの記述には、「授業内で具体例などがあげられていて、とても分かりやすく、理解できました」、あるいは、「授業レベルは適切だと思う。内容も具体的に行ったので、分かりやすかった」など、事例の提示等は概ね肯定的に捉えられていた。授業のレベルについても、「総合型やスポーツ施設のことをあまり知らなくても理解できる内容だったのでよかった」、「理解しやすく、レベルもよかった」等の記述がなされており、ほぼ理解できる内容構成となっていたと思われる。授業で取り上げる内容に関しては、「へーそ h なんだ!!と思うスポーツクラブ等の現状が知れて、面白かったです」、あるいは、「マネジメントやスポーツ産業にはとても興味があったので、内容はとてもおもしろかった」という記述もみられた。新たなことを学ぶ楽しさを少しでも感じてもらえたとするとうれしい限りである。

#### 5．授業のやり方

受講生にとって本講義の内容は初めて学ぶ内容が多くなるため、資料を用いたの説明や板書による講義形式をとっている。また映像を使っのスポーツクラブの状況等の説明も加えている。さらに、授業に関連する事項に対する各自の意見等を適宜求め、教員からの働きかけのみで終わらない

よう配慮している。

受講生のアンケートへの回答では、「毎回のプリント配布も板書の量が減るので授業内容に集中して取り組みました」、「プリントも詳しくて見やすいと思いました。例などで愛媛県のことなど身近なことが出ていたり...」など、毎回の授業時の資料配付は好意的に受け入れられており、今後も続けていこうと思う。これに関連した記述として「この授業の受け方は、90分で先生に新しいことを教わり、家での勉強で理解するという感じにしていた」というものもあり、資料が自宅での復習に活用されていることが伺えた。

受講生への質問に関しては、「一人一人発表していく方法は、授業内容もとても印象に残りやすく、定着しやすいと感じました」、あるいは、「当てられると思うと考えるし、答える機会のある授業はそうないので、すごく良いと思います」など、肯定的に受け入れられていると思われる。単調になりがちな講義のアクセントとして今後も取り入れていきたい。

映像の活用についても、「ドイツのスポーツクラブを映像で見せてくれたり、イメージがより詳細なものとなるので、すごく良かったと思います」という記述があり、今後も必要に応じて映像を活用していくことが必要であると思われる。

#### 6．授業の環境について

今回は本館の改修工事の影響で、受講生数に対して広すぎる教室での講義となった。受講生の指摘にも、「もっと小さな教室が良かったです」というものがあった。今回は工事との関係でやむを得ないが、適切な規模の教室使用が求められる。

#### 7．おわりに

今回の授業では、受講生の欠席や遅刻に対して、もう少し厳格に対応した方が良かったのではないかという反省点がうかんでくる。受講生も自らの授業への取り組み姿勢を振り返り、授業を欠席しない、授業に遅刻しないという、ごく当たり前のことができること、また、授業を積極的に受けるという姿勢をもって講義に臨むこと、これらのことが求められる。